

一般社団法人たけのこ ココスマイルジュニア
【当事業所における支援プログラム】

〈基本情報〉

① 事業所名 ココスマイルジュニア

② 作成年月日 令和7年8月8日

③ 法人理念

A) すべての子どもたちの成功を目指す（利用者第一主義）

B) 科学的根拠に基づいた質の高い療育（科学第一主義）

C) 職員の専門性の向上と働きやすさの実現

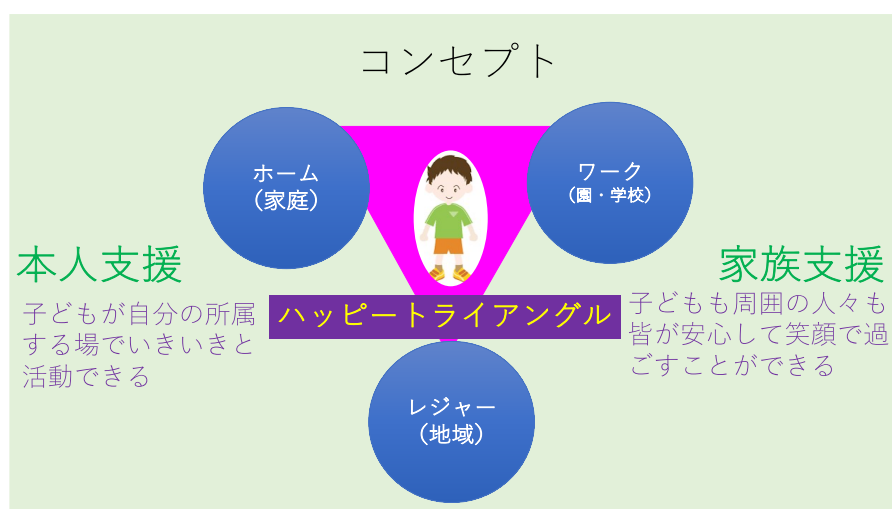
D) 持続可能な障害福祉サービスの提供

④ 支援方針

発達障害（の疑い）を持つ方やご家族が、現在から将来に渡り、より安心して幸せに暮らすことができるように、一緒に考え支える存在になることをめざす

➤ ご本人に対して 療育メニューの開発、教材の開発、実践、検証など

➤ 家族、関係者に対して 人材育成、相談支援、家庭支援、連携、啓発活動など



⑤ 営業時間

月曜日から土曜日、祝日

（8月10日から20日までの内の3日間、及び12月30日から翌年1月3日までを除く）

10時から17時30分

⑥ 送迎実施の有無 有り

〈支援内容〉

⑦ 本人支援の内容と5領域の関連性

お子様一人ひとりのアセスメントに基づき、発達段階やニーズに合わせた個別プログラムを作成し、個別療育、集団療育を実施（以下の5領域の支援内容を含む）

保護者に療育を見ていただいたり、保護者相談会を毎月実施したりして、意見交換をしながら互いに理解を深め、支援の内容や方法を共有

発達支援の5領域(児童発達支援ガイドライン)			
領域	ねらい	支援内容	計画への反映例
ア)健康・生活	健康状態の維持・改善 生活のリズムや生活習慣の形成 基本的生活スキルの獲得	健康状態のチェック、観察 睡眠、食事、排泄等、基本的な生活リズムを整える支援 咽嚥、嚥下、姿勢保持、自具具等に関する支援 病気の予防、安全への配慮 日常生活や社会生活を営めるように、身体的、精神的、社会的訓練 身の回りの清潔、食事、衣服の着脱、排泄等の生活に必要な基本的技能の習得 構造化による生活環境の整備 時間や空間を本人にわかりやすく構造化する	心身の状態をチェックする、自己認知支援の課題 基本的な生活習慣に関する課題 姿勢保持、自具具の工夫 本人にわかりやすい構造化の提案(物理的構造化、スケジュール、ワークシステム、視覚的情報提供、教材の工夫など) など
イ)運動・感覚	姿勢と運動・動作の向上 姿勢と運動・動作の補助的手段の活用 保有する感覚の総合的な活用	日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善および習得 関節の拘縮や変形の予防 筋力の維持・強化 移動能力向上のための支援 保有する視覚、聴覚、触覚等の感覚に十分に活用できるような遊びの支援 感覚の偏りに対する環境調整等の支援	日常生活動作に関する課題 ブレイルームでの運動的課題 感覚・感覚遊び(ジェル系、セラピーバテ、粘土、砂、絵の具、スライム、トランプリン、バランスボール、センサーグッズなど) 追視や注視に関する課題 手指の巧緻性に関する課題 身体の動きに関する課題 など
ウ)認知・行動	認知の発達と行動の獲得 空間・時間・数等の概念形成の習得 対象や外部起案今日の適切な認知と適切な行動の習得	視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分活用して、必要な情報を収集して認知機能の発達を促す支援 環境から情報を取得し、情報を選択し、行動につなげるという一連の認知過程の発達の支援 物の機能や属性、形、色、音などが変化する様子、空間・時間等の概念の形成を図ることによって、認知や行動の手がかりとして活用できるための支援 数量、形の大きさ、重さ、色の違い等の習得のための支援 認知の特性や偏りを踏まえ、情報を適切に処理できるための支援 行動障害の予防、適切な行動への対応の支援	前教科的課題(基礎基本＝土台となる力／教わる・学ぶなどの姿勢、見る・触れる・嗅ぐなどの感覚的体験、聞く・話す・数概念などの生活上での体験、アクティブラーニング) ・考える・教科的課題(国語・算数・理科・社会・音楽・図が工作・家庭・体育・職業・外国語等) など
エ)言語・コミュニケーション	言語の形成と活用 言語の受容および表出 コミュニケーションの基礎的能力の向上 コミュニケーション手段の選択と活用	具体的な事柄や体験と言葉の意味を結びつける 体系的な言語の習得、自発的な発声を促す支援 話し言葉、各種の文字・記号等を用いて、相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えるなど、言語を受容し表出する支援	自発(表出)コミュニケーションの課題 受容(理解)コミュニケーションの課題 【コミュニケーションの形態の練習】 発声・発語・身振り・サイン・直接行動・視覚情報(実物・半具体物・トビー・絵・写真・文字等)・PECSなど 【コミュニケーションの機能の練習】 要求・拒否・叙述・儀式的言葉・挨拶・感情表現・情報提供・情報請求など 【コミュニケーションの文脈の練習】 親・担当指導員・担当以外の指導員・利用者間 など
オ)人間関係・社会性	他者とのかわり 自己の理解と行動の調整 仲間づくりと集団への参加	人との関係を意識し、身近な人と親密な関係を築き、その信頼関係を基盤として、周囲の人と安定した関係を形成するための支援 遊び等を通じて人の動きを模倣することにより、社会性や対人関係の芽生えを支援 一人遊びから並行遊び、大人が介入して遊ぶ連合的な遊び、協働遊び(役割分担やルールなど)を通して徐々に社会性の発達を支援 大人を介在して自分のできること、できないことなど、自分の行動の特徴を理解する支援 気持ちや情動の調整ができるようになる支援 集団参加のための手順やルールの理解、遊びや集団活動に参加するための支援 など	信頼関係の構築 模倣 遊びの発展 自己理解 気持ちや情動の調整 集団遊び 集団活動 ルールの理解 集団活動の手順の理解 など

⑧ 家族支援の内容

支援場面の観察や参加の機会提供、本人・きょうだい児についての相談援助等、随時実施

⑨ 移行支援の内容

地域社会への参加の充実、移行に向けた準備支援、移行先との調整等、随時実施

⑩ 地域支援・地域連携の内容

所属機関／支援者の参観受入及び訪問参観、情報交換や支援会議での連携等、随時実施

⑪ 職員の質の向上に資する取組

公益社団法人子ども発達科学研究所、こころの発達研究所等の協力のもと、

以下の項目について年間研修計画を立て、全職員で研修後、研修報告書を提出し、保管

- 虐待防止研修
- 身体拘束等適正化研修
- 感染症対策研修／感染症対策訓練（感染症 BCP・安全対策）
- 防災 BCP 研修／避難訓練
- 職員スキルアップ研修
- 制度研修
- ハラスメント（人権）研修
- 管理者研修
- 新入社員研修
- 専門職研修
- 等
-

⑫ 主な行事等

季節イベント、祝日特別プログラム、長期休暇特別プログラム、保護者相談会、保護者座談会など随時開催